四月のある日。
エレベーターが壊れて、はじめて出会った。

ここにも春があるって、
今まで、知らなかった。

五月に、偶然が繰り返された。

もう、エレベーターは直っているのに。

七月、ずっと彼の姿を思い浮かべていた。

ジクソーパズルの一片をなくしたみたいに
落ち着かない気持ちだった。

八月、お母さんと喧嘩して、
不機嫌な私が、座り込んでいた。

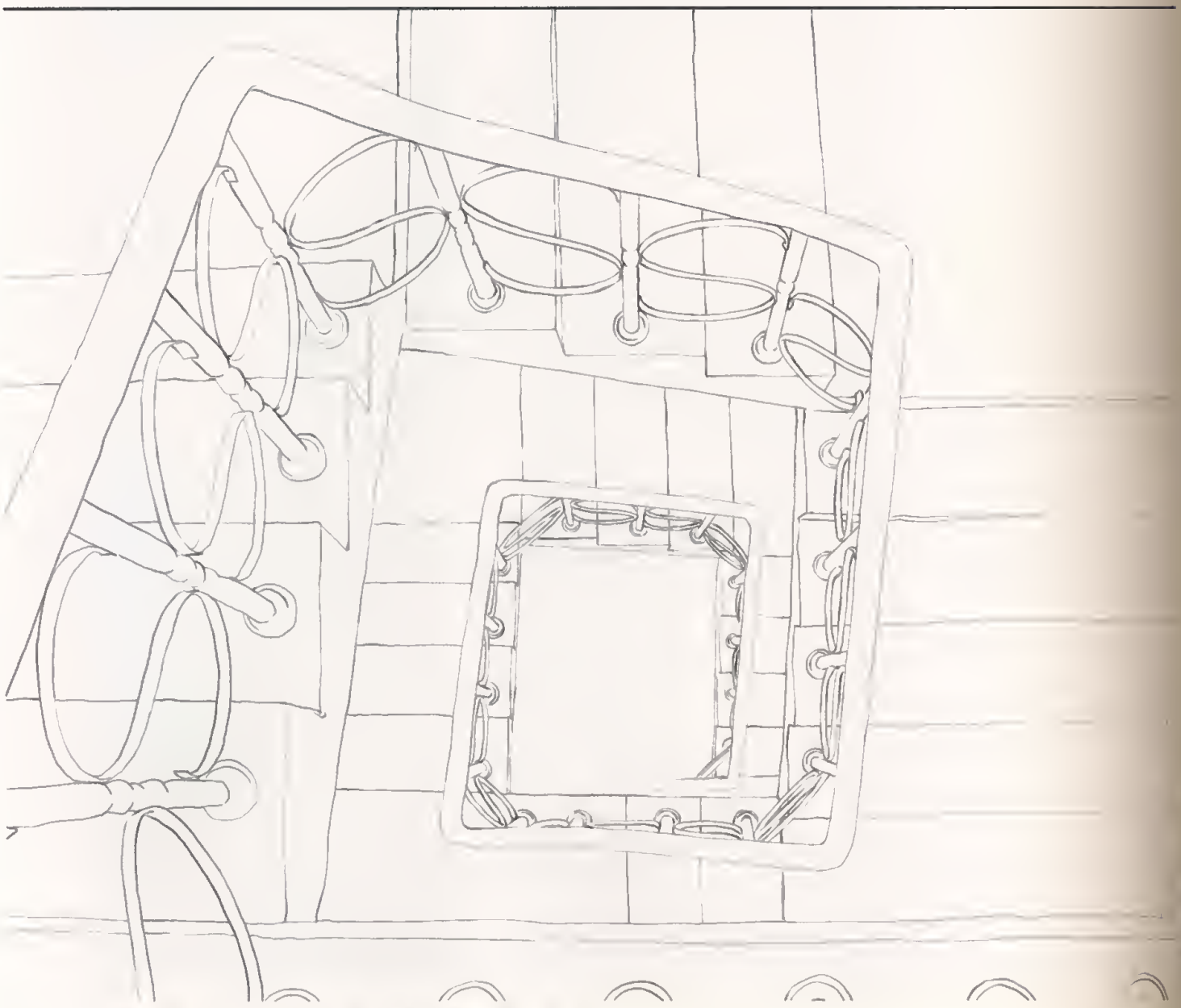
はじめて、声をかけてくれた。
あの日の午後。

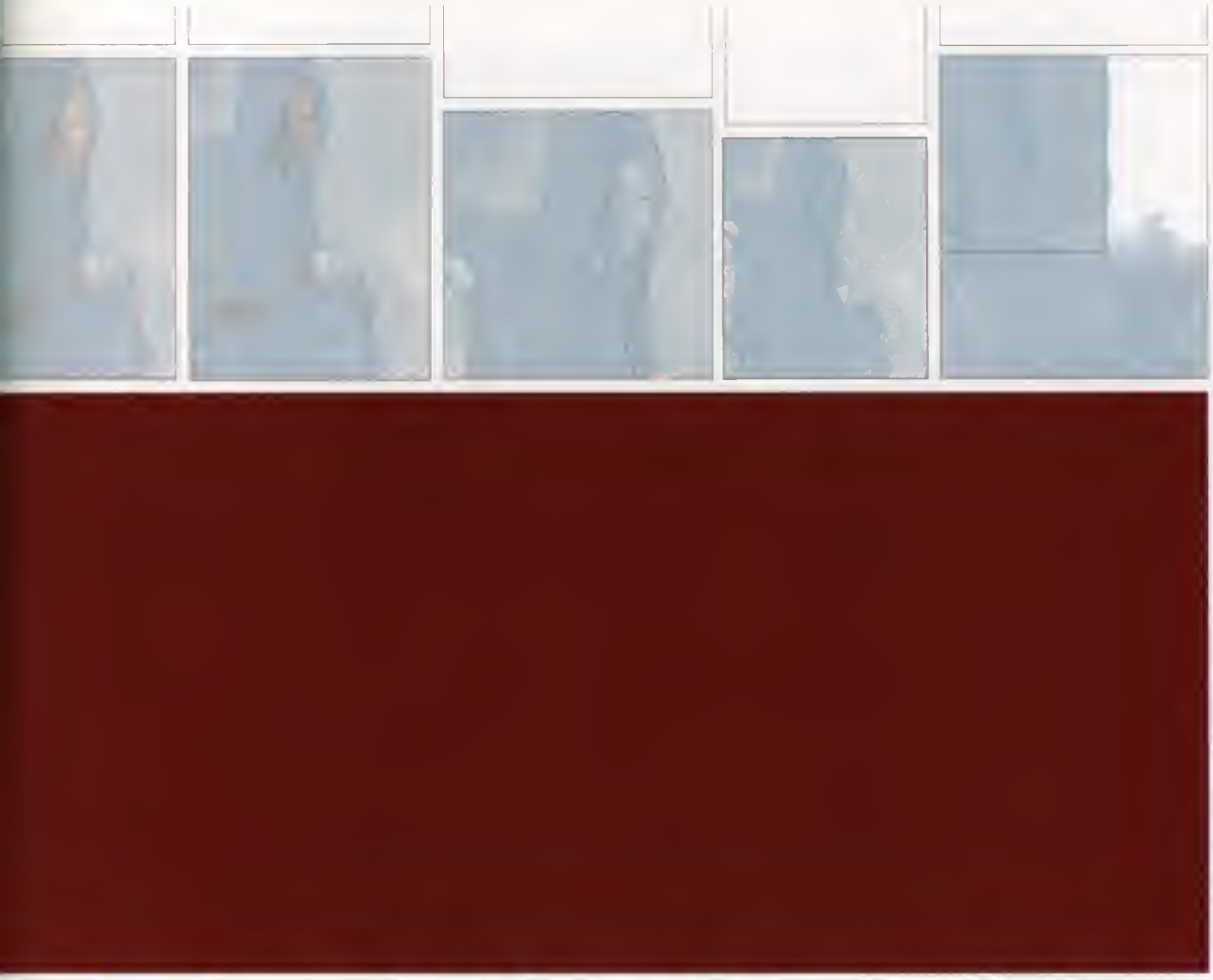
いろいろ話してくれた。
小さいときの話、家の出来事、切なく過ぎた恋話。

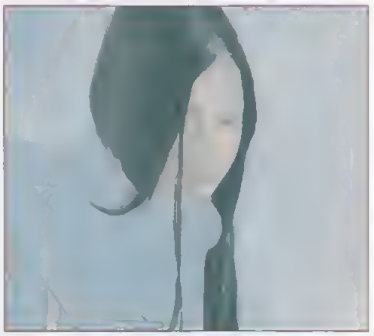
もしかしたら、私の恋もやってきたのかもと思い、
心の中に笑顔がひろがった。

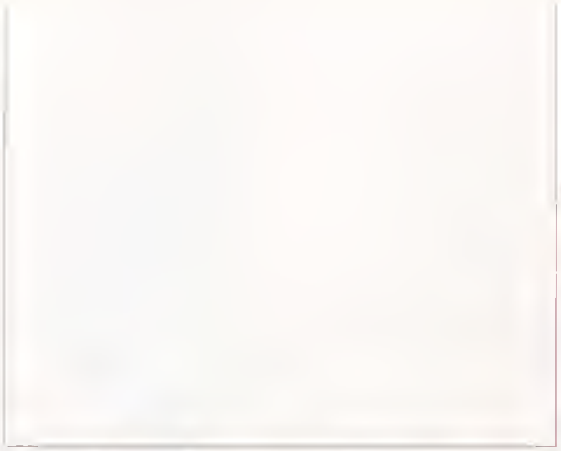
「八月の末にアメリカの学校が始まるから、
あと二、三日で出発なんだ」
突然の言葉に笑顔が消し飛んでしまった。

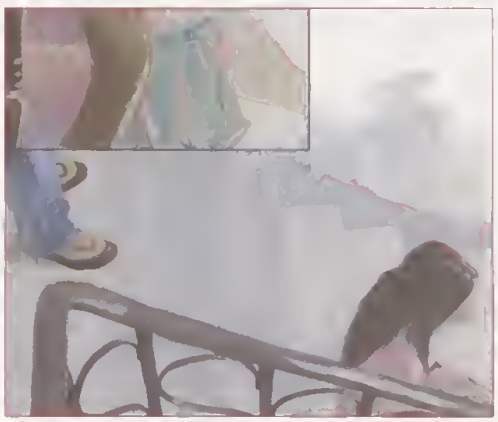
エレベーターがあるのに、なぜいつも
階段を上るんだろう。私。





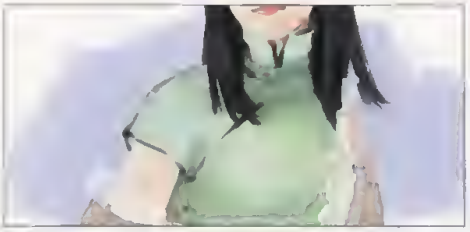






油絵のタッチで漫画を描いたら面白いと思ったので。（平凡）

すべて平凡に任せてもよかったのですが、少しこの作品に参加したいと思ったんです。（陳）



今回の描きおろし作品は、私にとってはひとつのロマンだと思います
(平凡)

平凡と長くコラボレーションしてきて、
やっと彼が想像していることを掴めるようになってきました。
仕上げのレトロなタッチは彼に任せています。
みなさんにも、私たちが伝えたい雰囲気を感じとっていただければと
思います。(陳)

二〇〇二年「The Library」表紙（小学館プロダクション刊）　本画集のために平凡ガリメイク